

第 77 回「山形県内企業の景気動向調査」確報

(令和 5 年 11 月調査)

～ 景況感は引き続き足踏み状態、
先行きは依然として慎重姿勢 ～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲5.6（前回調査比 0.8 ポイント上昇）と**小幅ながら 2 期ぶりの改善**となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目で改善となった。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲10.7（前回調査比 12.8 ポイント上昇）、製造業が▲7.9（前回調査比 0.8 ポイント上昇）、卸・小売業が▲11.0（前回調査比 9.9 ポイント下落）、サービス業が 7.0（前回調査比 1.4 ポイント下落）と、**建設業と製造業は改善、卸・小売業とサービス業は悪化**となった。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が 1.1（前回調査比 11.4 ポイント上昇）、村山北部が 2.3（前回調査比 13.2 ポイント上昇）、最上が▲7.7（前回調査比 2.8 ポイント下落）、置賜が▲4.4（前回調査比 9.9 ポイント上昇）、庄内田川が▲12.4（前回調査比 8.4 ポイント下落）、庄内飽海が▲12.9（前回調査比 17.5 ポイント下落）と、**村山南部、村山北部、置賜で改善**となった一方、**最上、庄内田川、庄内飽海で悪化**となった。村山南部と村山北部では D I 値がプラスに転じ、庄内飽海ではマイナスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲13.2（今回調査比 7.6 ポイント下落）と**悪化の見込み**となっている。人流の回復等に伴う消費の持ち直しから、一部では業況改善の動きがみられるものの、引き続き企業にとってコスト高は大きな負担となっており、総じてみれば景況マインドの改善には停滞感がうかがえ、足踏み状態となっている。また、海外情勢が不安定な中、先行きへの警戒感は総じて強く、今後も慎重な見通しが続く。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 68.3%（前年比 6.6 ポイント上昇）と、3 年連続で上昇となった。

令和 5 年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最 上	14
④ 置 賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 冬季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>	23
<参考資料Ⅱ：調査の概要>	23

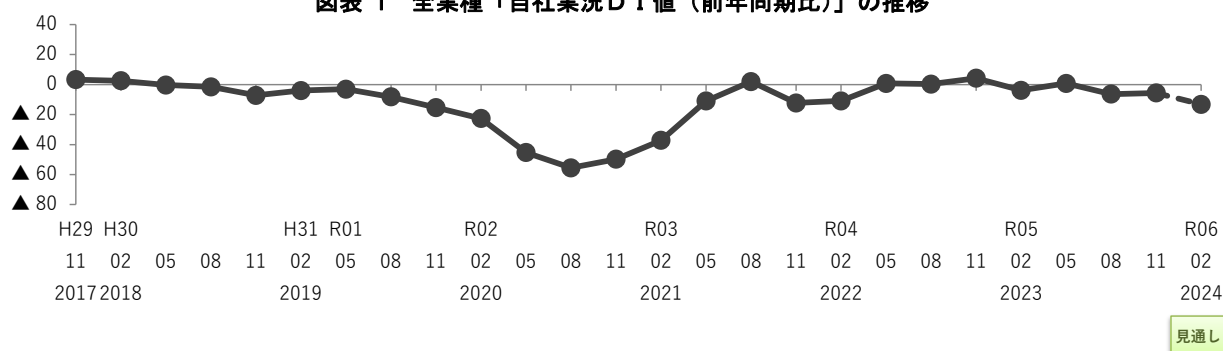
I. 県内企業の業況

1. 概況

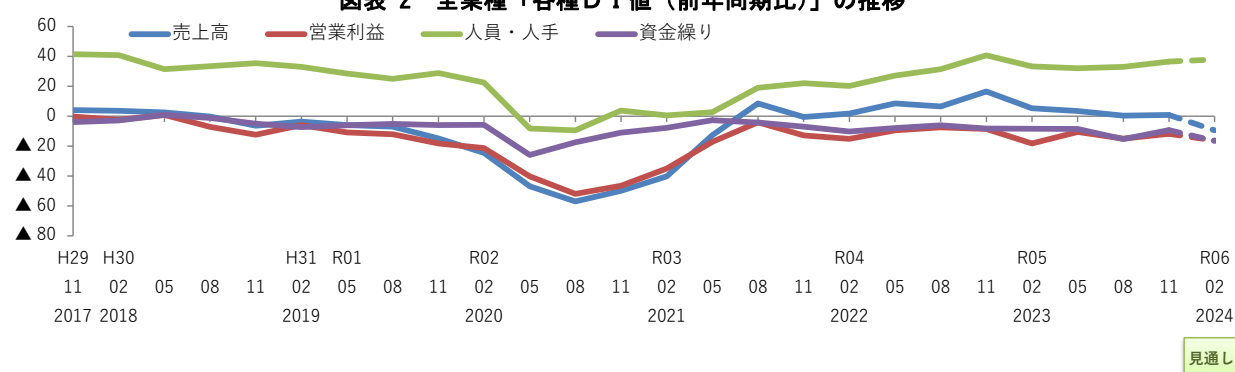
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲5.6（前回調査比0.8ポイント上昇）と小幅ながら2期ぶりの改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で改善となった。「人員・人手」は2期連続でプラス幅が拡大した。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲13.2（今回調査比7.6ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。人流の回復等に伴う消費の持ち直しから、一部では業況改善の動きがみられるものの、引き続き企業にとってコスト高は大きな負担となっており、総じてみれば景況マインドの改善には停滞感がうかがえ、足踏み状態となっている。また、海外情勢が不安定な中、先行きへの警戒感は総じて強く、今後も慎重な見通しが続く。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 04. 11 (n=379)	4.2	(3.9)	▲ 14.1	16.6	▲ 8.5	40.7	▲ 8.2
R 05. 02 (n=391)	▲ 3.8	(▲ 8.0)	▲ 14.0	5.3	▲ 18.2	33.3	▲ 8.4
R 05. 05 (n=396)	0.8	(4.6)	▲ 19.2	3.5	▲ 10.6	32.1	▲ 8.5
R 05. 08 (n=373)	▲ 6.4	(▲ 7.2)	▲ 7.1	0.3	▲ 15.0	33.0	▲ 15.3
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	(0.8)	▲ 6.4	0.8	▲ 11.8	36.5	▲ 9.3
前回調査比	-	-	-	(0.5)	(3.2)	(3.5)	(6.0)
先行き見通し	▲ 13.2	-	-	▲ 9.5	▲ 16.3	37.9	▲ 16.6
今回調査比	(▲ 7.6)	-	-	(▲ 10.3)	(▲ 4.5)	(1.4)	(▲ 7.3)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

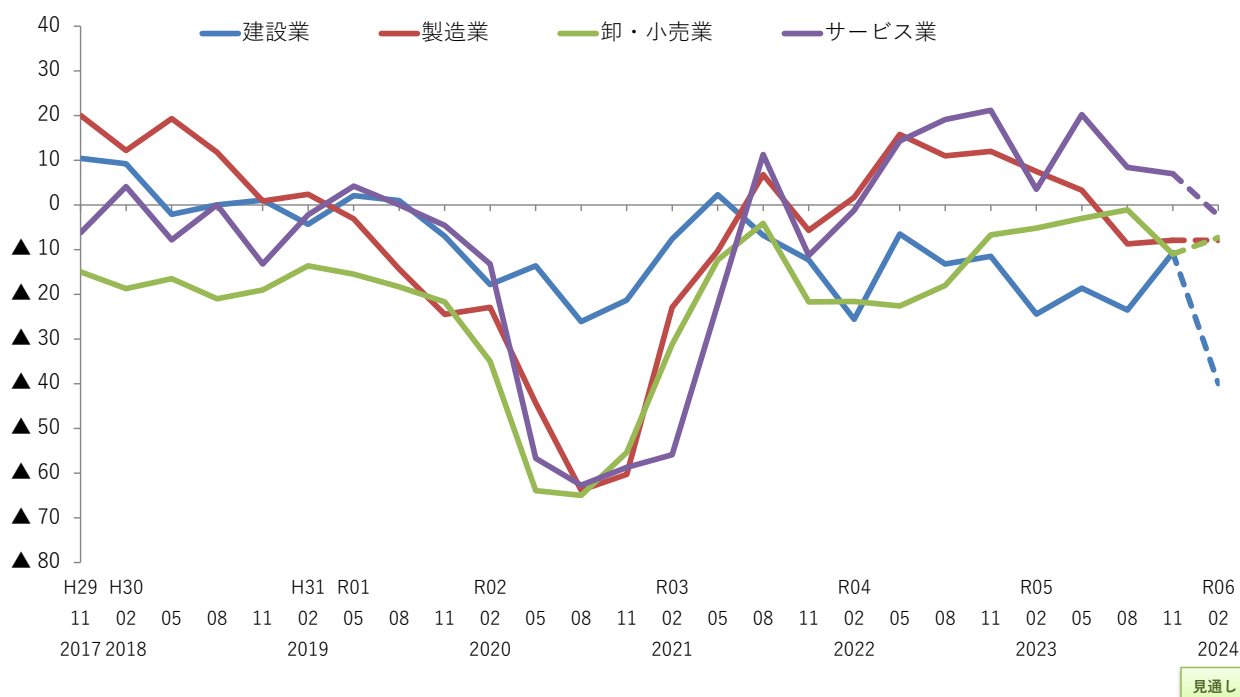
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲10.7（前回調査比 12.8 ポイント上昇）、製造業が▲7.9（前回調査比 0.8 ポイント上昇）、卸・小売業が▲11.0（前回調査比 9.9 ポイント下落）、サービス業が 7.0（前回調査比 1.4 ポイント下落）と、建設業と製造業は改善、卸・小売業とサービス業は悪化となった。

業況の先行き見通しは、卸・小売業は改善、建設業とサービス業は悪化、製造業は横ばいに推移する見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 11 (n=379)	4.2	▲ 11.5	12.0	▲ 6.7	21.2
R 05. 02 (n=391)	▲ 3.8	▲ 24.4	7.5	▲ 5.2	3.5
R 05. 05 (n=396)	0.8	▲ 18.6	3.3	▲ 3.0	20.2
R 05. 08 (n=373)	▲ 6.4	▲ 23.5	▲ 8.7	▲ 1.1	8.4
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	▲ 10.7	▲ 7.9	▲ 11.0	7.0
前回調査比	(0.8)	(12.8)	(0.8)	(▲ 9.9)	(▲ 1.4)
先行き見通し	▲ 13.2	▲ 40.0	▲ 7.9	▲ 7.3	▲ 2.4
今回調査比	(▲ 7.6)	(▲ 29.3)	(0.0)	(3.7)	(▲ 9.4)

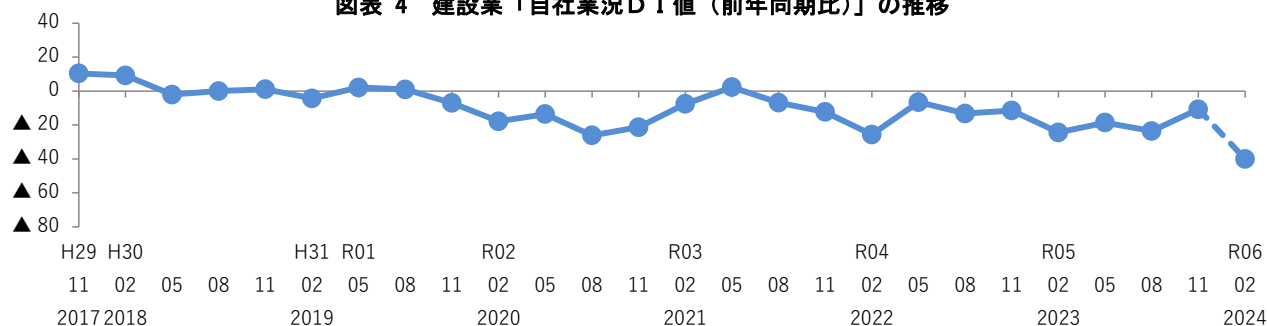
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

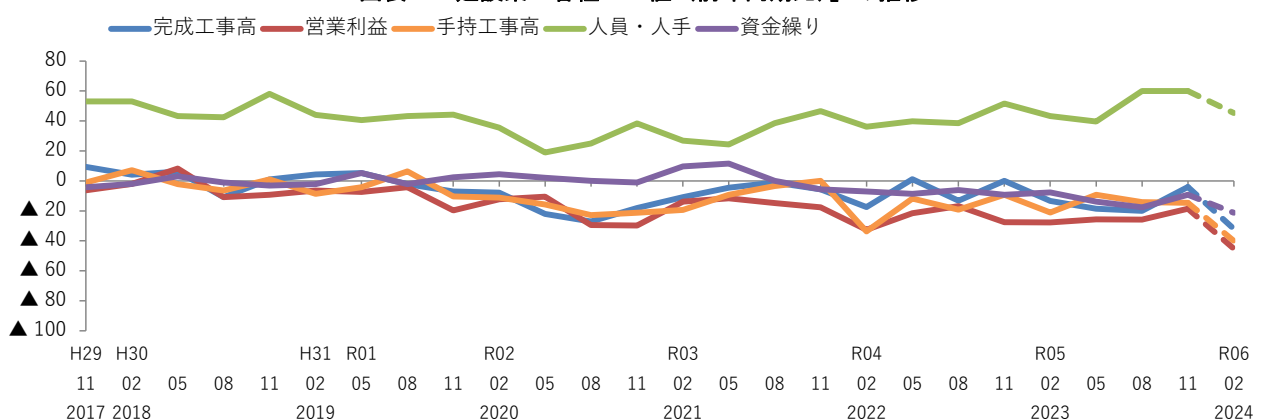
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲10.7（前回調査比 12.8 ポイント上昇）と、前期の後退から改善の動きになっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「資金繰り」は改善、「手持工事高」は悪化した。「人員・人手」は横ばいの推移となった。各社のコメントから、ある程度の受注は確保できているものの、引き続き資材価格等の高騰が大きな負担となっている状況がうかがえる。今後の見通しとして、公共工事の減少などによる業況悪化が懸念されている。また、猶予期間が終了する時間外上限規制に関して、現在重点的に対応を進めている旨の内容が複数寄せられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲40.0（今回調査比 29.3 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 04. 11 (n=87)	▲ 11.5	(1.7)	▲ 22.9	0.0	▲ 27.6	▲ 9.2	51.7	▲ 9.2
R 05. 02 (n=90)	▲ 24.4	(▲ 12.9)	▲ 27.6	▲ 13.4	▲ 27.7	▲ 21.1	43.3	▲ 7.7
R 05. 05 (n=86)	▲ 18.6	(5.8)	▲ 36.6	▲ 18.6	▲ 25.6	▲ 9.3	39.6	▲ 13.9
R 05. 08 (n=85)	▲ 23.5	(▲ 4.9)	▲ 26.7	▲ 20.0	▲ 25.8	▲ 14.1	60.0	▲ 17.6
R 05. 11 (n=75)	▲ 10.7	(12.8)	▲ 7.1	▲ 4.0	▲ 18.6	▲ 14.6	60.0	▲ 9.3
前回調査比	-	-	-	(16.0)	(7.2)	(▲ 0.5)	(0.0)	(8.3)
先行き見通し	▲ 40.0	-	-	▲ 32.0	▲ 45.3	▲ 40.0	45.3	▲ 21.3
今回調査比	(▲ 29.3)	-	-	(▲ 28.0)	(▲ 26.7)	(▲ 25.4)	(▲ 14.7)	(▲ 12.0)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 官民工事の発注が減少しており、受注工事量が少なくなっている。資材等の価格上昇や工事量減少の影響を受け、受注競争により工事価格が低廉化しており、収益環境はとても厳しい状況にある。(村山南)
- 人手不足が一番痛い。型枠大工、ダンプの運転手、重機の運転手が足りない。(村山北)
- 土木工事は堅調であるが、建築の公共工事がかかなり減少している。(最上)
- 公共土木工事は減少し、民間建築工事は前年並みが見込まれる。資材価格はやや上昇し、納期も依然遅い。ガソリン・軽油はウクライナ戦争の影響で価格が上昇した。(置賜)
- 人手不足で手持ち工事を完成させるのに苦労している。(庄内田川)
- 公共事業の減少と相変わらずの原油価格高止まり、物価高騰で売上高・利益率等はかなり厳しい状況となってきている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

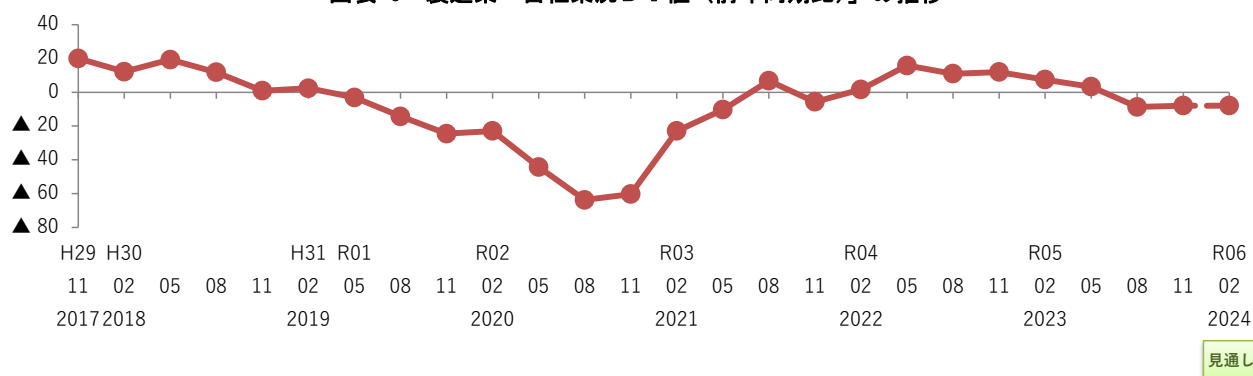
- 2024 年問題が建設業全体にプレッシャーになると思われる。現場単位の労働時間設定などの対応に追われている。(村山南)
- 来年の時間外上限規制に対応して現場直行直帰体制の本格運用開始を目指し、36 協定の一部見直しおよび労使合意の上、改定を行うなど、2024 年問題の対応策をまとめている最中である。(村山北)
- 暖冬による積雪減少から除雪売り上げの低下が予想される。(最上)
- 新築工事が徐々に減っている感じがする。(置賜)
- 来期は公共工事の発注がかかなり少なくなるとされる。したがって、民間の営業に力を入れていかなければならないと思う。(庄内田川)
- 会社および現場のDX化への対応を外部のコンサルタントと協議している。働き方改革に対応できるように体制の再確認、見直し等を社会保険労務士と進めている。(庄内田川)
- 今後想定される人手不足(若い社員の減少)に対応できるように業務の効率化を進めている。(庄内飽海)

② 製造業

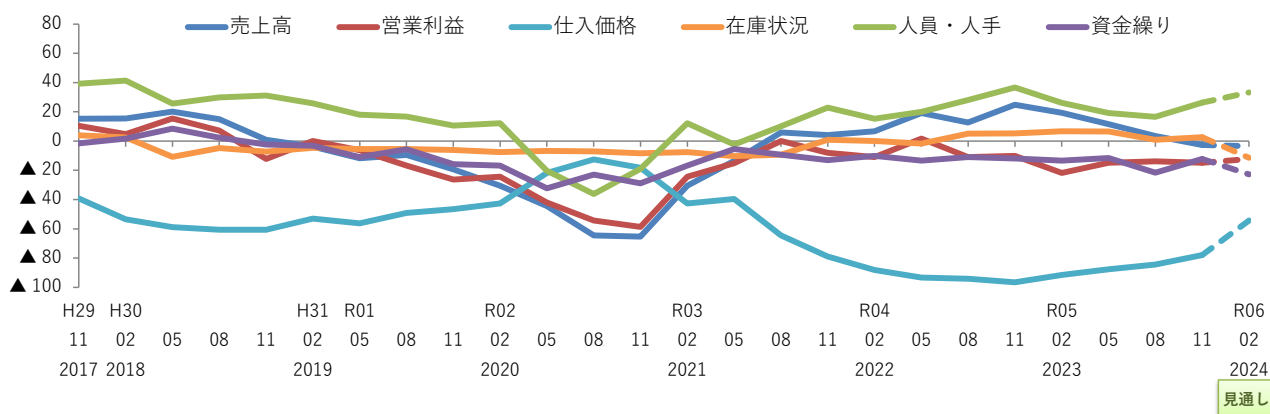
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.9（前回調査比 0.8 ポイント上昇）と小幅ながら 4 期ぶりの改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」と「営業利益」は悪化、「仕入価格」「在庫状況」「資金繰り」は改善となり、「売上高」は D I 値がマイナスに転じた。「人員・人手」は 4 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントから、一部の食品製造業では観光需要の増加に伴い堅調な動きがみられた。しかしながら、円安の長期化などを背景に原材料の価格上昇による負担増は依然続いており、価格転嫁が進んでいる企業となかなか進められない企業の間で景況感が二極化している状況がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲7.9（今回調査比±0.0 ポイント）と横ばいに推移する見込みとなっている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 04. 11 (n=117)	12.0	(1.0)	▲ 10.2	24.8	▲ 10.2	▲ 96.6	5.2	36.7	▲ 12.0
R 05. 02 (n=119)	7.5	(▲ 4.5)	▲ 2.6	19.3	▲ 21.8	▲ 91.6	6.7	26.1	▲ 13.4
R 05. 05 (n=121)	3.3	(▲ 4.2)	▲ 18.5	11.6	▲ 14.8	▲ 87.6	6.6	19.1	▲ 11.6
R 05. 08 (n=115)	▲ 8.7	(▲ 12.0)	▲ 8.2	3.5	▲ 13.9	▲ 84.4	0.9	16.6	▲ 21.7
R 05. 11 (n=114)	▲ 7.9	(0.8)	▲ 12.2	▲ 2.7	▲ 14.9	▲ 78.0	2.6	26.3	▲ 12.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 6.2)	(▲ 1.0)	(6.4)	(1.7)	(9.7)	(9.4)
先行き見通し	▲ 7.9	-	-	▲ 3.5	▲ 12.3	▲ 54.4	▲ 11.4	33.3	▲ 22.8
今回調査比	(0.0)	-	-	(▲ 0.8)	(2.6)	(23.6)	(▲ 14.0)	(7.0)	(▲ 10.5)

Q. 今期の業況について

業界の声

- コロナ禍明けで人流が回復し、売り上げは回復傾向にあるが、原材料高騰・人件費増・光熱費高騰の影響で営業利益は厳しい状況にある。(村山南)
- 自動車および半導体の設備投資が低迷しており、受注環境が非常に悪い。そのため注文の取り合いになっており、原価アップ分の価格転嫁が進んでいない。金属素材は高止まり、樹脂についてはさらなる値上げが見込まれている。(村山北)
- 通信用コネクタの受注は減っており回復していない。車部品は少し復調し、その後横ばいに推移している。(最上)
- 天候不安定や為替の関係で原材料資材の値上げが続き、価格転嫁も難しい状況となっている。慢性的な人手不足により不安定化が進んでいる。(置賜)
- 中国経済減速の影響で受注がやや落ち込んでいる。(庄内田川)
- 電気・ガソリン・人件費の高止まりを価格に反映できていない。コロナ禍による借入の返済が来年から始まることに不安を感じている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

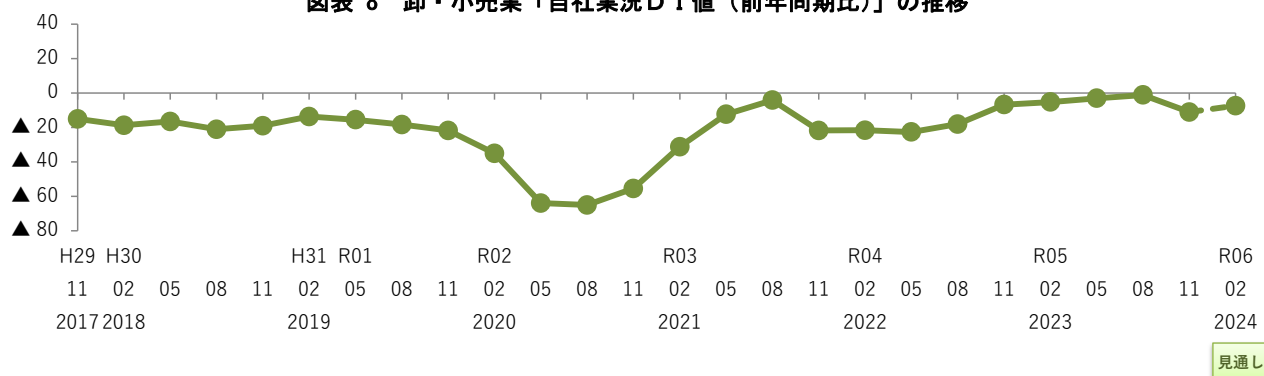
- 原価低減のための設備投資は必要になると思われる。事業計画の中に盛り込み、中期的に投資しなければならない。(村山南)
- 生産数量の減少により売上高は下がっているが、材料費等の高騰による値上げ交渉の成果が出始めており、利益率は改善している。ここにきて原油価格・電力料も落ち着いたことで、製造原価の抑止につながっており、良い流れとなっている。(村山北)
- 売上高は前年比 4%減少しているが、適正コストの受託により収益は大幅にアップしている。設備投資を行って競争力をつけてきたことが、ここにきて収力アップに結び付いている。(最上)
- 活気は出ているが利益につながりづらい傾向にある。来期は世界的な紛争や気候変動によっても売り上げや物価が変動しそうなので予想が難しい。(置賜)
- 最低賃金上昇による社員の賃上げがあり、さらに人員不足による残業割増しも増えているため、製造原価をいかに抑えて売り上げを維持するか、来期を見据えて計画中である。(庄内田川)
- SNS 動画広告等、ネットを通じた分析と戦略的な広告展開に取り組む。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

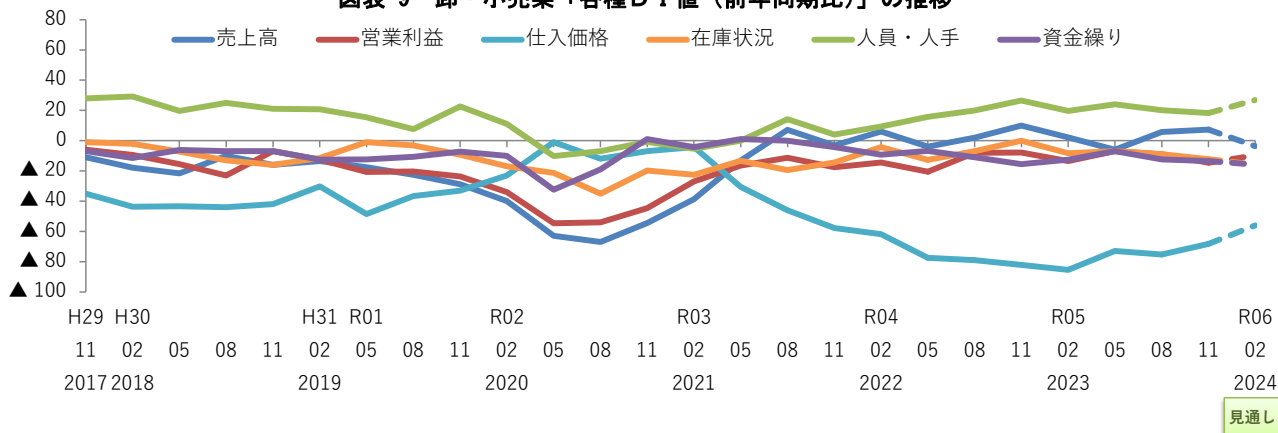
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲11.0（前回調査比 9.9 ポイント下落）と 6 期ぶりの悪化となった。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「売上高」と「仕入価格」は改善、「営業利益」「在庫状況」「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントをみると、引き続き仕入価格の上昇等によって収益環境は厳しいとする内容が目立った。特に嗜好品において、消費マインドの冷え込みが顕著に感じられるとする内容が複数寄せられており、物価上昇の影響が色濃くうかがえる。また、海外情勢の先行き不透明感が高まる中で、今後についても消費の先細りなどが懸念点として挙げられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲7.3（今回調査比 3.7 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	仕入 価格	在庫 状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 04. 11（n=90）	▲ 6. 7	（11. 3）	▲ 20. 0	10. 0	▲ 7. 8	▲ 82. 2	0. 0	26. 6	▲ 15. 5
R 05. 02（n=96）	▲ 5. 2	（1. 5）	▲ 22. 3	2. 1	▲ 13. 5	▲ 85. 5	▲ 8. 4	19. 7	▲ 12. 5
R 05. 05（n=100）	▲ 3. 0	（2. 2）	▲ 20. 8	▲ 6. 0	▲ 7. 0	▲ 73. 0	▲ 7. 0	24. 0	▲ 7. 0
R 05. 08（n=89）	▲ 1. 1	（1. 9）	▲ 1. 0	5. 7	▲ 9. 0	▲ 75. 3	▲ 9. 0	20. 2	▲ 12. 4
R 05. 11（n=82）	▲ 11. 0	（▲ 9. 9）	▲ 7. 9	7. 3	▲ 14. 6	▲ 68. 3	▲ 12. 2	18. 3	▲ 13. 5
	前回調査比	-	-	（1. 6）	（▲ 5. 6）	（7. 0）	（▲ 3. 2）	（▲ 1. 9）	（▲ 1. 1）
先行き見通し	▲ 7. 3	-	-	▲ 3. 6	▲ 9. 7	▲ 56. 1	▲ 15. 9	26. 8	▲ 15. 9
	今回調査比	（3. 7）	-	（▲ 10. 9）	（4. 9）	（12. 2）	（▲ 3. 7）	（8. 5）	（▲ 2. 4）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 今年に入ってから各メーカーの製品価格が軒並み値上がりした。その結果、店頭での商品の動きが鈍い。業界最大の繁忙期である年末商戦がどうなるか不安である。(村山南)
- 円高・燃料費の高騰による諸物価の高騰が続き、一般顧客の消費動向は生活必需品がメインにならざるを得ないため、嗜好品を扱う当社は客数の減少が続いている。定価は少しずつ上がっているものの、売上げの減少に歯止めがかけられない。(村山南)
- 仕入価格の上昇が止まらず、毎月何らかの商品の仕入価格が上がっている。個人客は戻りつつあるが、団体客の戻りがまだまだで、今期もコロナ禍前までの業況には戻らないと予想している。(村山北)
- 個人消費については、物価高の影響で売上げの伸び悩みが続いている。(最上)
- 物価上昇の影響で店頭の客足は鈍っている。ご来店いただいても本当に必要なものだけを購入し、「ついで買い」がなくなった。(置賜)
- 資材、人件費、仕入、すべてが上昇している。天候不順により価格の変動が激しい。価格転嫁するが十分ではない。(庄内田川)
- 経済の悪化（物価の上昇）などにより、身の回り品需要への影響はじわじわと出てきている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

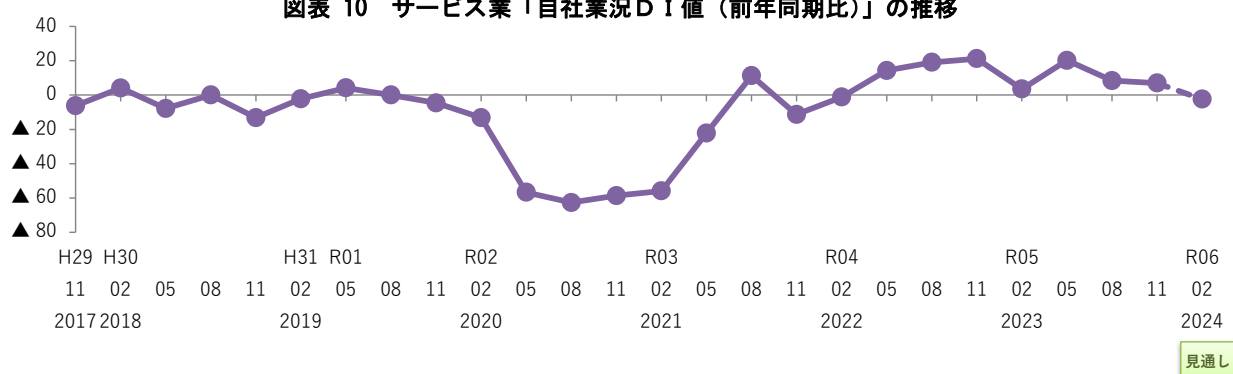
- ネットショップ強化のための人材育成に取り組んでいる。(村山南)
- 店舗の統廃合などで全体の収益を改善する方法を模索している。(村山南)
- 来期にかけては見通しが不確定である。(村山北)
- 販路拡大のための営業強化対策と来年度に向けて社員の増員に取り組む。(最上)
- 新商品の開発・制作が進んでおり、先行予約を実施したところ、売上げに結びつけられている。HP のリニューアル、EC サイトの導入から、この新商品の認知度が上がると思われる。(置賜)
- 気候変動に起因する取扱高の減少が懸念される。経費を抑えることが重要と考える。(庄内田川)
- 仕入価格が高騰しているので、どれだけ販売価格に転嫁できるかが今の課題である。(庄内飽海)

④ サービス業

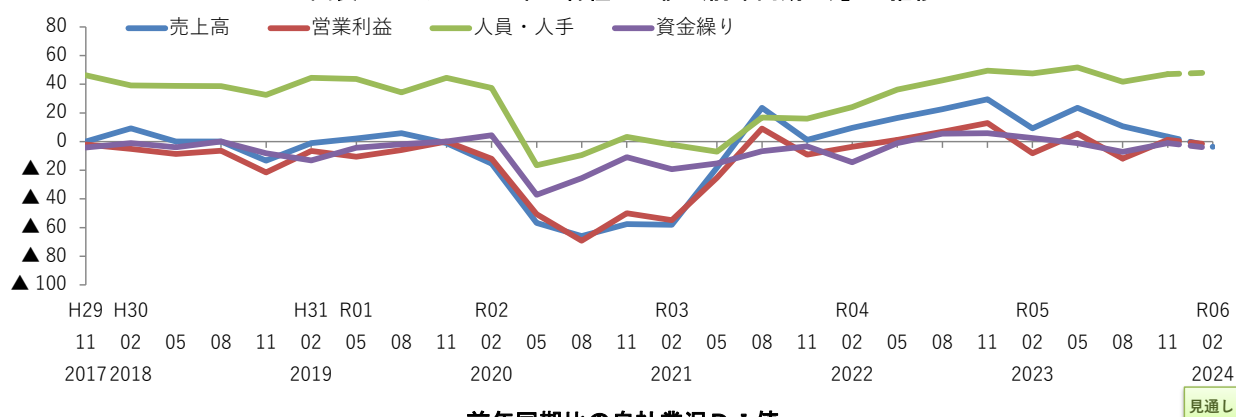
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 7.0（前回調査比 1.4 ポイント下落）と小幅ながら 2 期連続で悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」は悪化となった一方、「営業利益」と「資金繰り」は改善となり、「営業利益」は D I 値がプラスに転じた。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が拡大した。各社のコメントから、一部宿泊業では、新型コロナの収束に加えて円安傾向も追い風となり、インバウンド観光客が増加しているなど、好調な状況がうかがえる。一方で、光熱費や燃料費の高騰によるコスト高は続いており、総じてみれば持ち直しの動きには一服感がみられる。また、依然として運送業のドライバー不足は深刻であり、2024 年問題への対応と併せて喫緊の課題となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲2.4（今回調査比 9.4 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 04. 11 (n=85)	21.2	(2.1)	▲ 4.5	29.5	12.9	49.4	5.9
R 05. 02 (n=86)	3.5	(▲ 17.7)	▲ 7.1	9.3	▲ 8.1	47.6	2.4
R 05. 05 (n=89)	20.2	(16.7)	0.0	23.6	5.6	51.7	▲ 1.1
R 05. 08 (n=84)	8.4	(▲ 11.8)	6.8	10.7	▲ 11.9	41.7	▲ 7.2
R 05. 11 (n=85)	7.0	(▲ 1.4)	3.6	3.5	1.2	47.0	▲ 1.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.2)	(13.1)	(5.3)	(6.1)
先行き見通し	▲ 2.4	-	-	▲ 3.6	▲ 2.3	48.2	▲ 4.7
今回調査比	(▲ 9.4)	-	-	(▲ 7.1)	(▲ 3.5)	(1.2)	(▲ 3.6)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 新型コロナが5類になってインバウンド観光客が増加した。特に紅葉の時期は、自国に「紅葉」の無い東南アジアからのお客さまが目立った。円安なので国内では高く見えても、海外からは割安に見えるようである。(村山南)
- 燃料高、ドライバー不足により経営状況は非常に厳しい。運賃は徐々に上昇傾向にあるものの、大手との交渉は長期化している。(村山南)
- 県内における解体工事は落ち着いた感があり、今後は物件の確保がより一段と難しくなることが予想される。価格競争等から、より一層の利益確保に向けた活動が必要になると思われる。(村山北)
- インバウンドが増加している。国内の団体客は少なめである。(最上)
- 物価上昇をカバーする客単価のアップをどのように進めていくかが課題である。(置賜)
- 資源高、物価の上昇に所得の賃上げが追いついていない。不動産の取引は活発とはいえない。(庄内田川)
- 東北では取扱貨物が前年より減少している。円安による原料や燃料の輸入業者の負担増が懸念される。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 人件費や水道光熱費、物価などにおいて厳しい状況が続くが、コスト削減、経営改革を実践することで、これまでとさほど変わらない見通しと想定している。(村山南)
- 就業規則を改定し、定年延長、再雇用制度を取り入れた。(村山北)
- 全国的な景気動向も踏まえると、冬の国内旅行は動きが鈍くなると感じている。(置賜)
- 2024 年問題を控え、取引先との価格改定の交渉に臨む。人手不足解消のため、福利厚生の実施、労働環境の改善、会社を認知してもらうための活動などを行っている。(庄内田川)
- 人材確保、人経費などが今後の課題になると考えている。(庄内飽海)
- もっと人手不足が深刻な状況になると思われる。(庄内飽海)

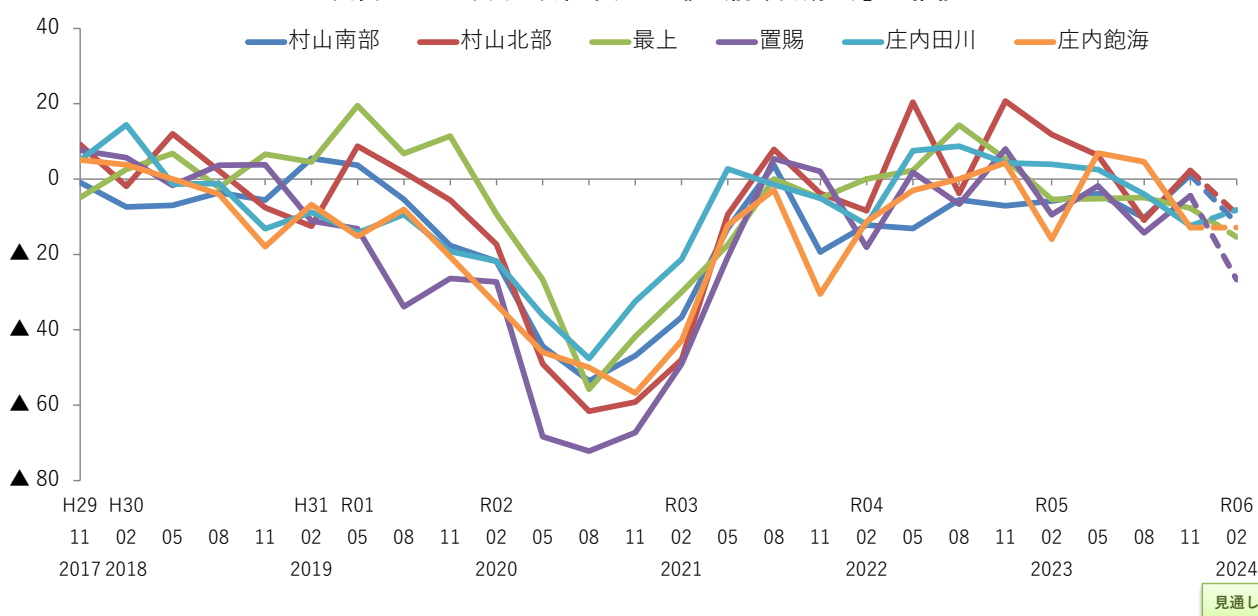
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、村山南部が 1.1（前回調査比 11.4 ポイント上昇）、村山北部が 2.3（前回調査比 13.2 ポイント上昇）、最上が▲7.7（前回調査比 2.8 ポイント下落）、置賜が▲4.4（前回調査比 9.9 ポイント上昇）、庄内田川が▲12.4（前回調査比 8.4 ポイント下落）、庄内飽海が▲12.9（前回調査比 17.5 ポイント下落）と、村山南部、村山北部、置賜で改善となった一方、最上、庄内田川、庄内飽海で悪化となった。村山南部と村山北部では D I 値がプラスに転じ、庄内飽海ではマイナスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、庄内田川は改善、村山南部、村山北部、最上、置賜は悪化、庄内飽海は横ばいに推移する見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 04.11 (n=379)	4.2	▲ 7.1	20.7	5.3	8.0	4.3	4.3
R 05.02 (n=391)	▲ 3.8	▲ 5.8	11.8	▲ 5.4	▲ 9.5	3.9	▲ 16.0
R 05.05 (n=396)	0.8	▲ 3.9	6.3	▲ 5.2	▲ 1.8	2.5	6.9
R 05.08 (n=373)	▲ 6.4	▲ 10.3	▲ 10.9	▲ 4.9	▲ 14.3	▲ 4.0	4.6
R 05.11 (n=356)	▲ 5.6	1.1	2.3	▲ 7.7	▲ 4.4	▲ 12.4	▲ 12.9
前回調査比	(0.8)	(11.4)	(13.2)	(▲ 2.8)	(9.9)	(▲ 8.4)	(▲ 17.5)
先行き見通し	▲ 13.2	▲ 11.7	▲ 9.3	▲ 15.4	▲ 26.7	▲ 8.2	▲ 12.9
今回調査比	(▲ 7.6)	(▲ 12.8)	(▲ 11.6)	(▲ 7.7)	(▲ 22.3)	(4.2)	(0.0)

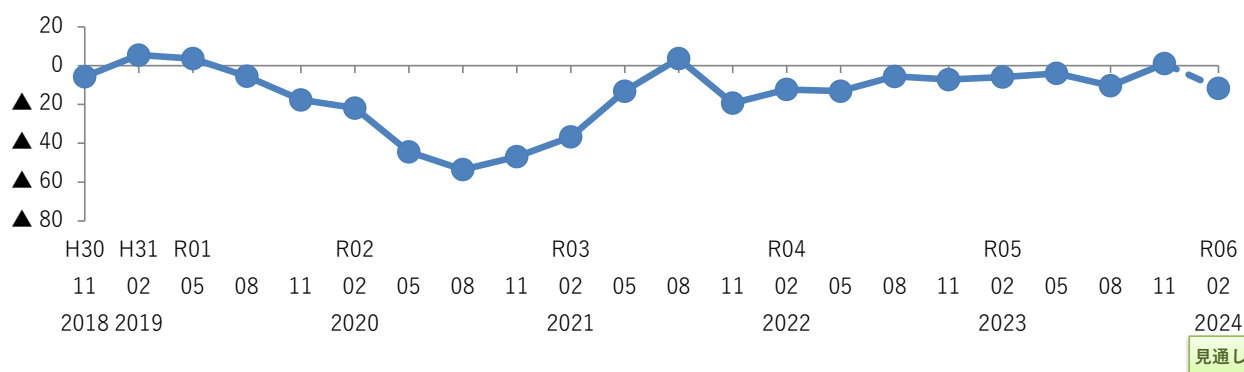
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

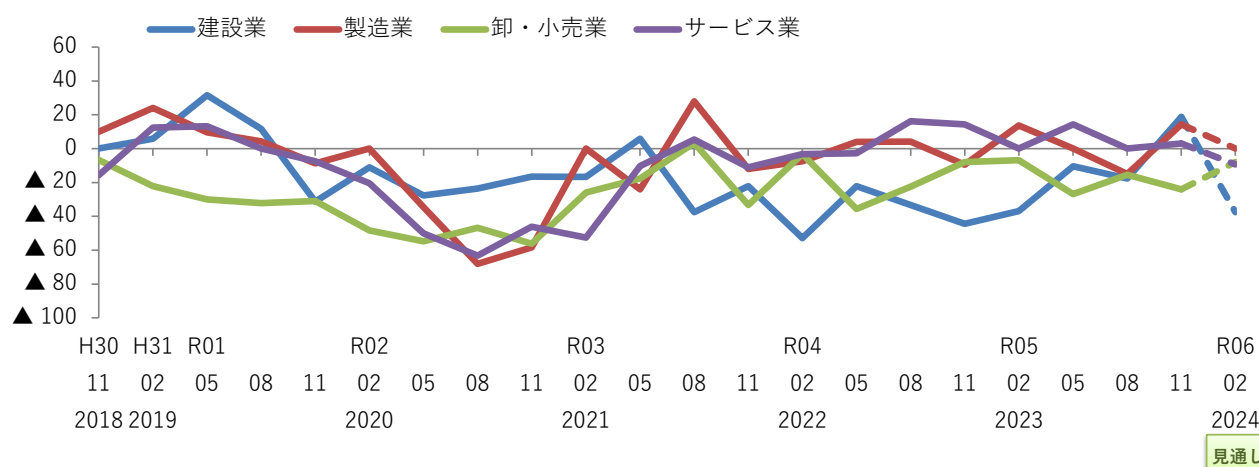
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.1（前回調査比 11.4 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなり、プラスに転じた。業種別にみると、卸・小売業で悪化、その他の 3 業種で改善となっており、建設業と製造業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲11.7（今回調査比 12.8 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

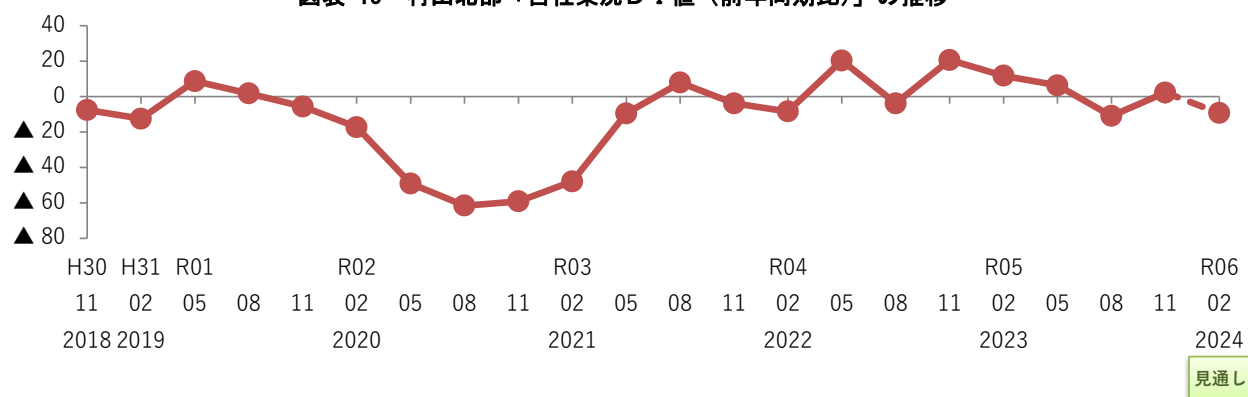
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 11 (n=99)	▲ 7. 1	(▲ 1. 6)	▲ 20. 0	▲ 44. 4	▲ 9. 5	▲ 8. 0	14. 3
R 05. 02 (n=104)	▲ 5. 8	(1. 3)	▲ 20. 2	▲ 36. 9	13. 7	▲ 6. 9	0. 0
R 05. 05 (n=103)	▲ 3. 9	(1. 9)	▲ 21. 1	▲ 10. 5	0. 0	▲ 26. 9	14. 3
R 05. 08 (n=97)	▲ 10. 3	(▲ 6. 4)	▲ 4. 9	▲ 17. 6	▲ 15. 0	▲ 15. 4	0. 0
R 05. 11 (n=94)	1. 1	(11. 4)	▲ 10. 3	18. 7	14. 3	▲ 24. 0	3. 1
前回調査比	-	-	-	(36. 3)	(29. 3)	(▲ 8. 6)	(3. 1)
先行き見通し	▲ 11. 7	-	-	▲ 37. 5	0. 0	▲ 8. 0	▲ 9. 4
今回調査比	(▲ 12. 8)	-	-	(▲ 56. 2)	(▲ 14. 3)	(16. 0)	(▲ 12. 5)

② 村山北部

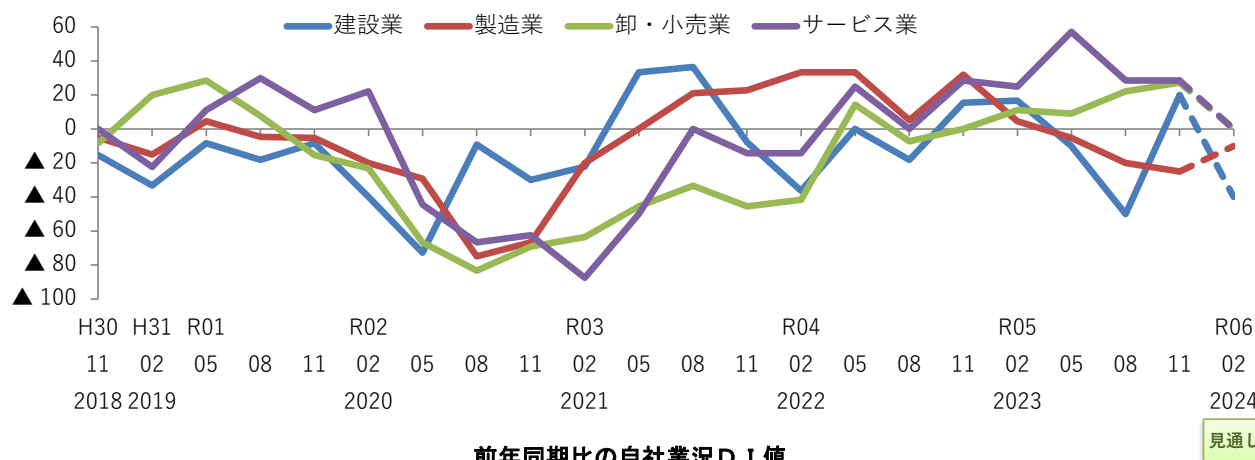
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 2.3（前回調査比 13.2 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善となり、プラスに転じた。業種別にみると、サービス業は横ばい、製造業で悪化、建設業と卸・小売業で改善となっており、建設業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲9.3（今回調査比 11.6 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

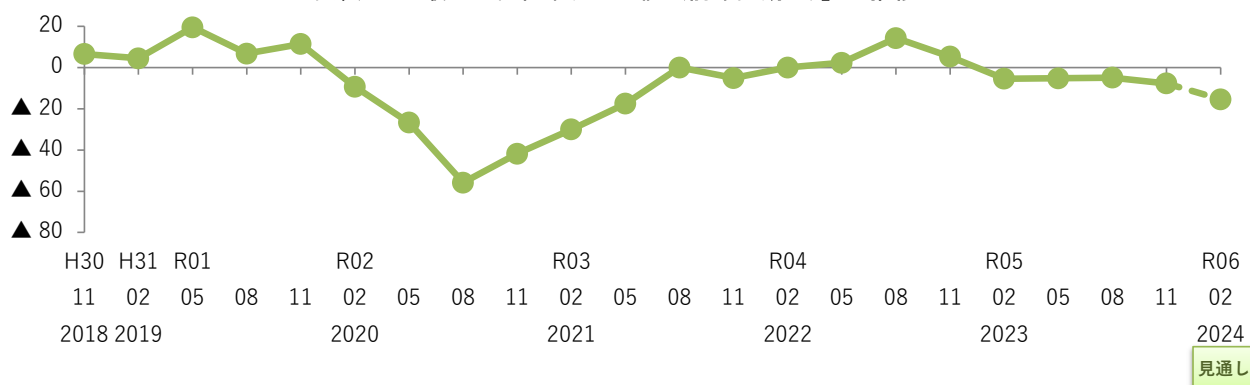
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 11 (n=53)	20.7	(24.5)	▲ 11.4	15.4	31.9	0.0	28.5
R 05. 02 (n=51)	11.8	(▲ 8.9)	▲ 9.4	16.7	4.5	11.1	25.0
R 05. 05 (n=47)	6.3	(▲ 5.5)	▲ 9.8	▲ 10.0	▲ 5.2	9.1	57.1
R 05. 08 (n=46)	▲ 10.9	(▲ 17.2)	▲ 6.4	▲ 50.0	▲ 20.0	22.2	28.6
R 05. 11 (n=43)	2.3	(13.2)	▲ 2.2	20.0	▲ 25.0	27.3	28.6
前回調査比	-	-	-	(70.0)	(▲ 5.0)	(5.1)	(0.0)
先行き見通し	▲ 9.3	-	-	▲ 40.0	▲ 10.0	0.0	0.0
今回調査比	(▲ 11.6)	-	-	(▲ 60.0)	(15.0)	(▲ 27.3)	(▲ 28.6)

③ 最 上

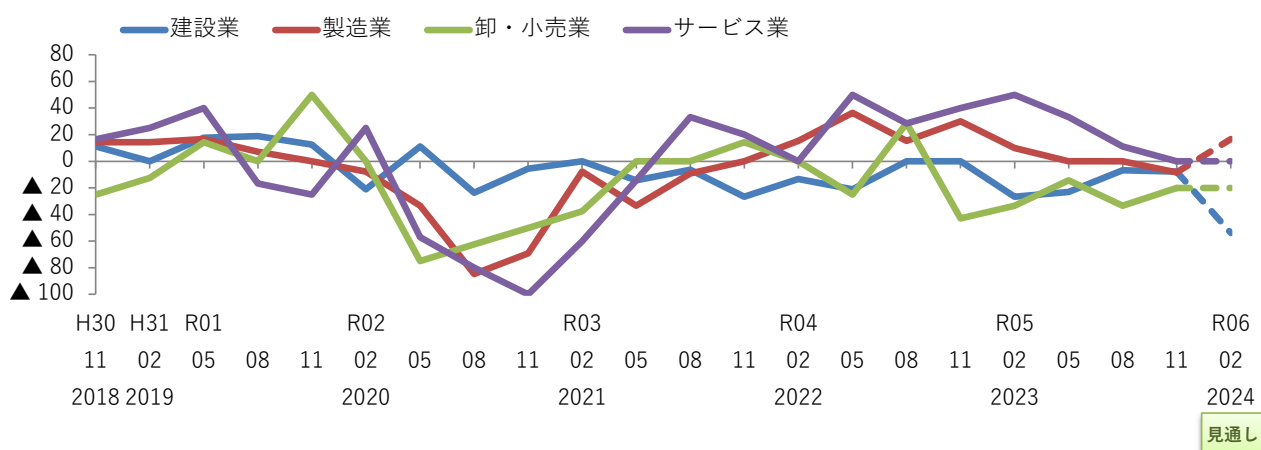
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲7.7（前回調査比 2.8 ポイント下落）と 3 期ぶりに悪化した。業種別にみると、卸・小売業で改善、その他の 3 業種で悪化となっており、製造業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲15.4（今回調査比 7.7 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

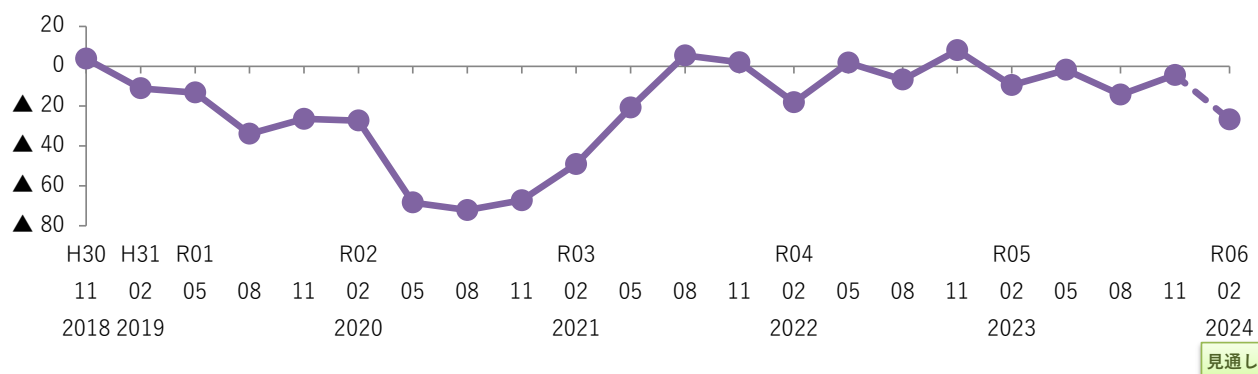
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 04. 11 (n=38)	5.3	(▲ 9.0)	▲ 7.2	0.0	30.0	▲ 42.9	40.0
R 05. 02 (n=37)	▲ 5.4	(▲ 10.7)	▲ 23.6	▲ 26.7	10.0	▲ 33.3	50.0
R 05. 05 (n=39)	▲ 5.2	(0.2)	▲ 27.0	▲ 23.1	0.0	▲ 14.3	33.3
R 05. 08 (n=41)	▲ 4.9	(0.3)	▲ 15.4	▲ 6.7	0.0	▲ 33.3	11.1
R 05. 11 (n=39)	▲ 7.7	(▲ 2.8)	▲ 7.4	▲ 7.7	▲ 8.4	▲ 20.0	0.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 1.0)	(▲ 8.4)	(13.3)	(▲ 11.1)
先行き見通し	▲ 15.4	-	-	▲ 53.8	16.7	▲ 20.0	0.0
今回調査比	(▲ 7.7)	-	-	(▲ 46.1)	(25.1)	(0.0)	(0.0)

④ 置 賜

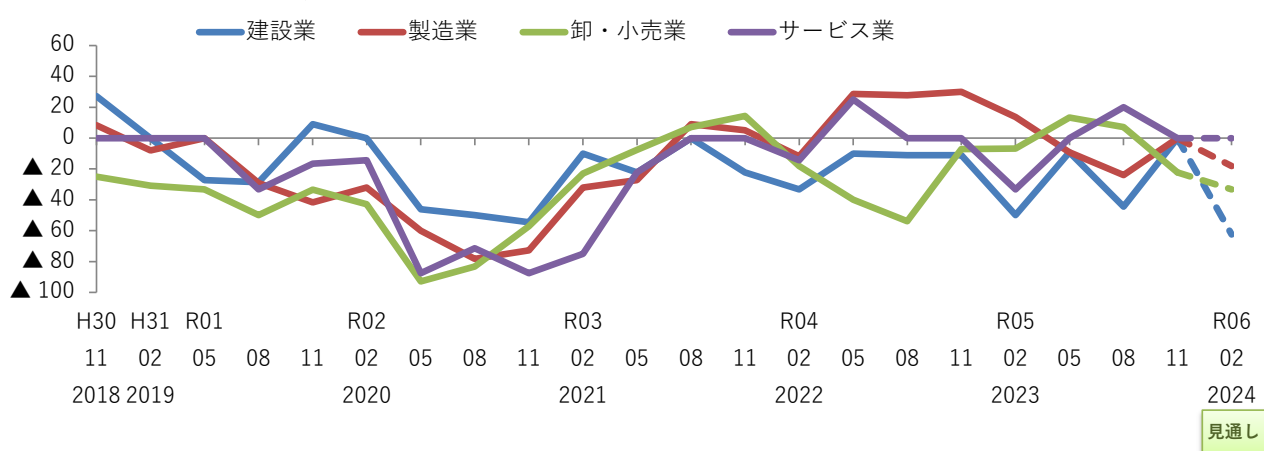
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲4.4（前回調査比 9.9 ポイント上昇）と前期の後退から改善の動きとなった。業種別にみると、建設業と製造業で改善、卸・小売業とサービス業で悪化となっており、卸・小売業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.7（今回調査比 22.3 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

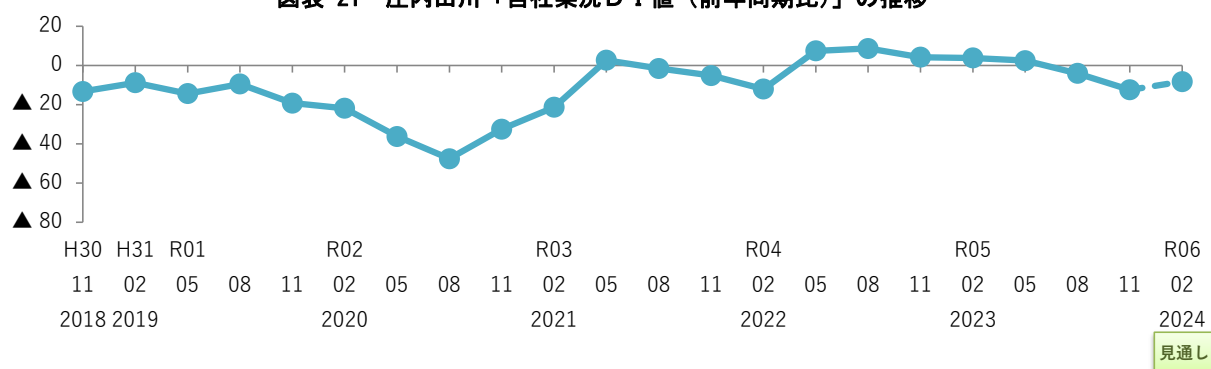
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 04. 11 (n=50)	8.0	(14.7)	▲ 13.3	▲ 11.1	30.0	▲ 7.2	0.0
R 05. 02 (n=53)	▲ 9.5	(▲ 17.5)	▲ 12.0	▲ 50.0	13.6	▲ 6.7	▲ 33.3
R 05. 05 (n=54)	▲ 1.8	(7.7)	▲ 26.4	▲ 9.1	▲ 9.1	13.3	0.0
R 05. 08 (n=49)	▲ 14.3	(▲ 12.5)	1.8	▲ 44.5	▲ 23.9	7.2	20.0
R 05. 11 (n=45)	▲ 4.4	(9.9)	▲ 12.3	0.0	0.0	▲ 22.2	0.0
前回調査比	-	-	-	(44.5)	(23.9)	(▲ 29.4)	(▲ 20.0)
先行き見通し	▲ 26.7	-	-	▲ 62.5	▲ 18.2	▲ 33.3	0.0
今回調査比	(▲ 22.3)	-	-	(▲ 62.5)	(▲ 18.2)	(▲ 11.1)	(0.0)

⑤ 庄内田川

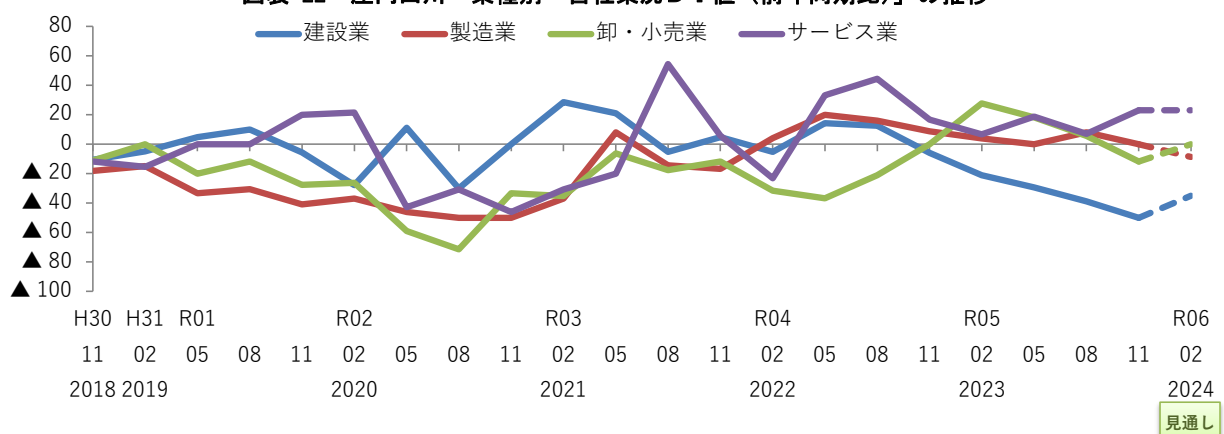
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.4（前回調査比 8.4 ポイント下落）と 5 期連続の悪化となった。業種別にみると、サービス業で改善となった一方、その他の 3 業種で悪化となり、卸・小売業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲8.2（今回調査 4.2 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

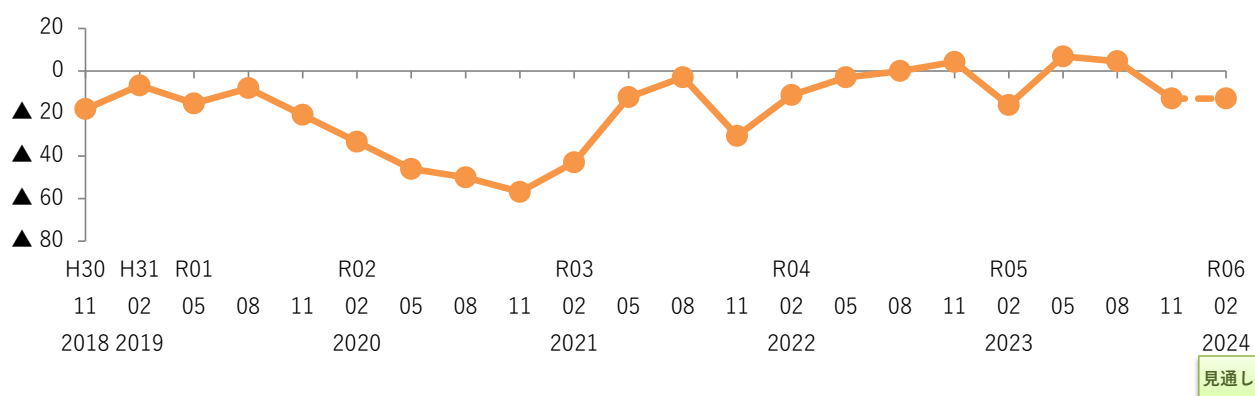
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 11 (n=70)	4.3	(▲ 4.4)	▲ 11.6	▲ 5.9	8.7	0.0	16.7
R 05. 02 (n=77)	3.9	(▲ 0.4)	▲ 2.8	▲ 21.1	4.0	27.7	6.7
R 05. 05 (n=81)	2.5	(▲ 1.4)	▲ 13.0	▲ 29.4	0.0	18.2	18.7
R 05. 08 (n=75)	▲ 4.0	(▲ 6.5)	▲ 6.2	▲ 38.8	8.0	5.6	7.1
R 05. 11 (n=73)	▲ 12.4	(▲ 8.4)	▲ 2.7	▲ 50.0	0.0	▲ 11.8	23.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 11.2)	(▲ 8.0)	(▲ 17.4)	(16.0)
先行き見通し	▲ 8.2	-	-	▲ 35.0	▲ 8.7	0.0	23.1
今回調査比	(4.2)	-	-	(15.0)	(▲ 8.7)	(11.8)	(0.0)

⑥ 庄内飽海

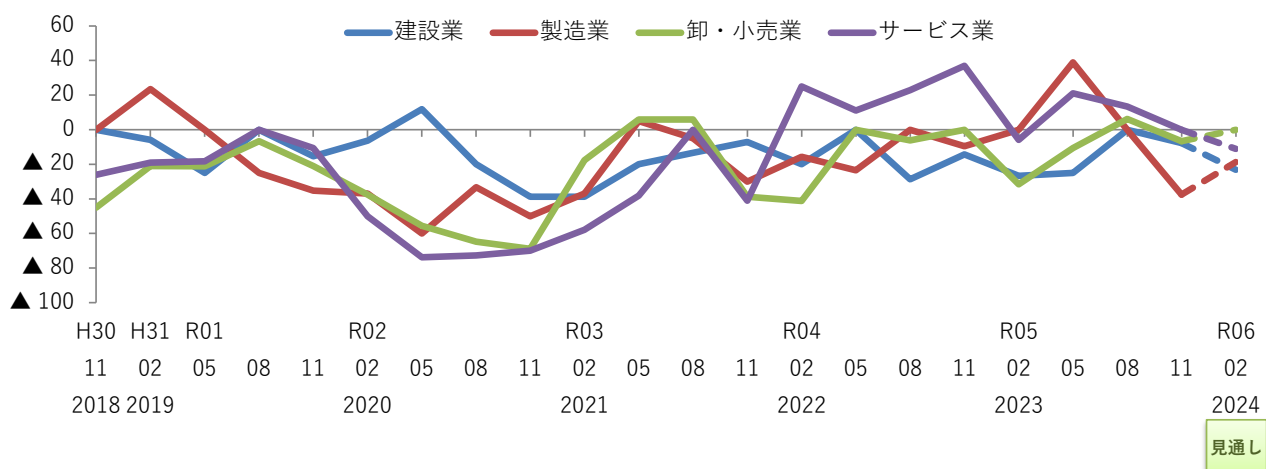
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.9（前回調査比 17.5 ポイント下落）と 2 期連続の悪化となり、マイナスに転じた。業種別にみると、すべての業種で悪化となり、製造業と卸・小売業は D I 値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲12.9（今回調査比±0.0 ポイント）と横ばいに推移する見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 04. 11 (n=69)	4.3	(4.3)	▲ 14.1	▲ 14.3	▲ 9.5	0.0	36.9
R 05. 02 (n=69)	▲ 16.0	(▲ 20.3)	▲ 16.0	▲ 26.7	0.0	▲ 31.6	▲ 5.9
R 05. 05 (n=72)	6.9	(22.9)	▲ 20.3	▲ 25.0	38.9	▲ 10.6	21.0
R 05. 08 (n=65)	4.6	(▲ 2.3)	▲ 13.9	0.0	0.0	6.2	13.4
R 05. 11 (n=62)	▲ 12.9	(▲ 17.5)	▲ 3.1	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 6.7	0.0
前回調査比	-	-	-	(▲ 7.7)	(▲ 37.5)	(▲ 12.9)	(▲ 13.4)
先行き見通し	▲ 12.9	-	-	▲ 23.1	▲ 18.7	0.0	▲ 11.1
今回調査比	(0.0)	-	-	(▲ 15.4)	(18.8)	(6.7)	(▲ 11.1)

II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

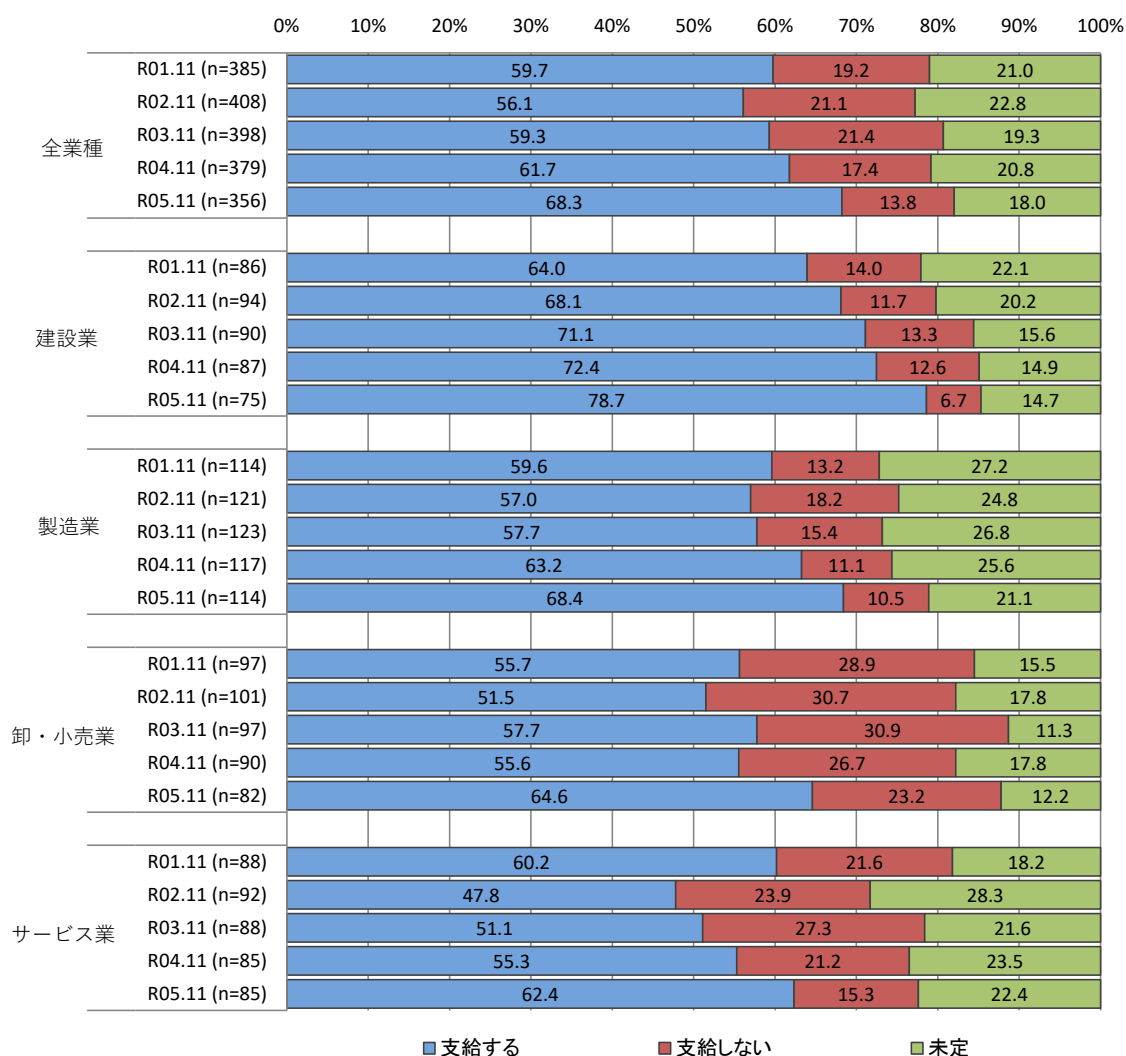
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 68.3%（前年比 6.6 ポイント上昇）と、3 年連続で上昇となった。

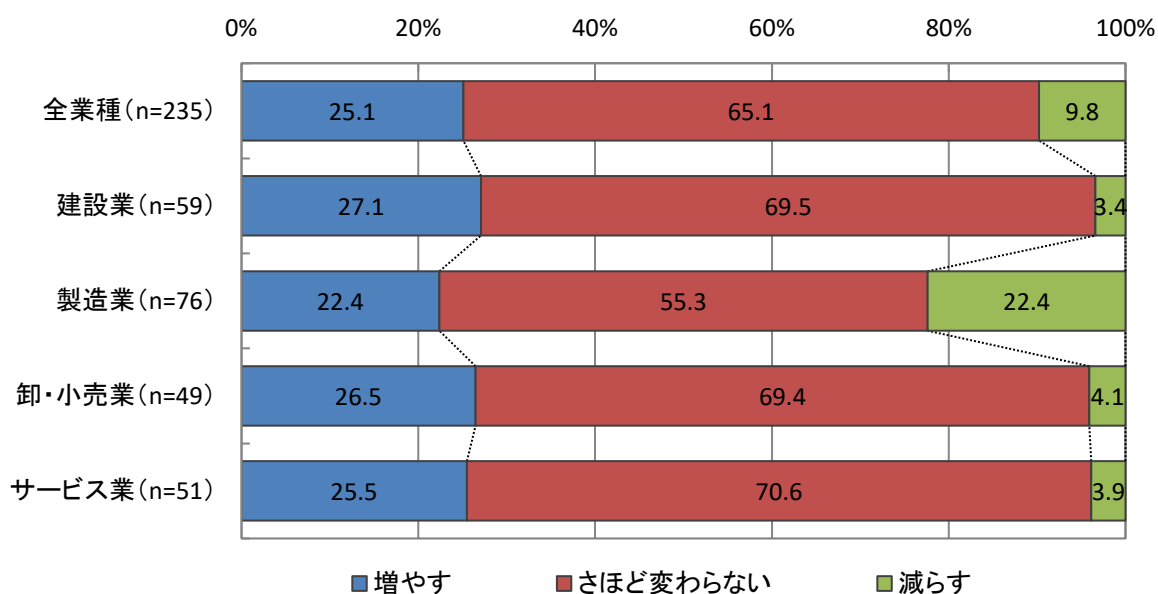
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 78.7%（前年比 6.3 ポイント上昇）、製造業が 68.4%（前年比 5.2 ポイント上昇）、卸・小売業が 64.6%（前年比 9.0 ポイント上昇）、サービス業が 62.4%（前年比 7.1 ポイント上昇）と、すべての業種で前年から上昇となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、65.1%であった。業種別にみると、製造業で「減らす」の割合が他業種に比べて高くなっている。

図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



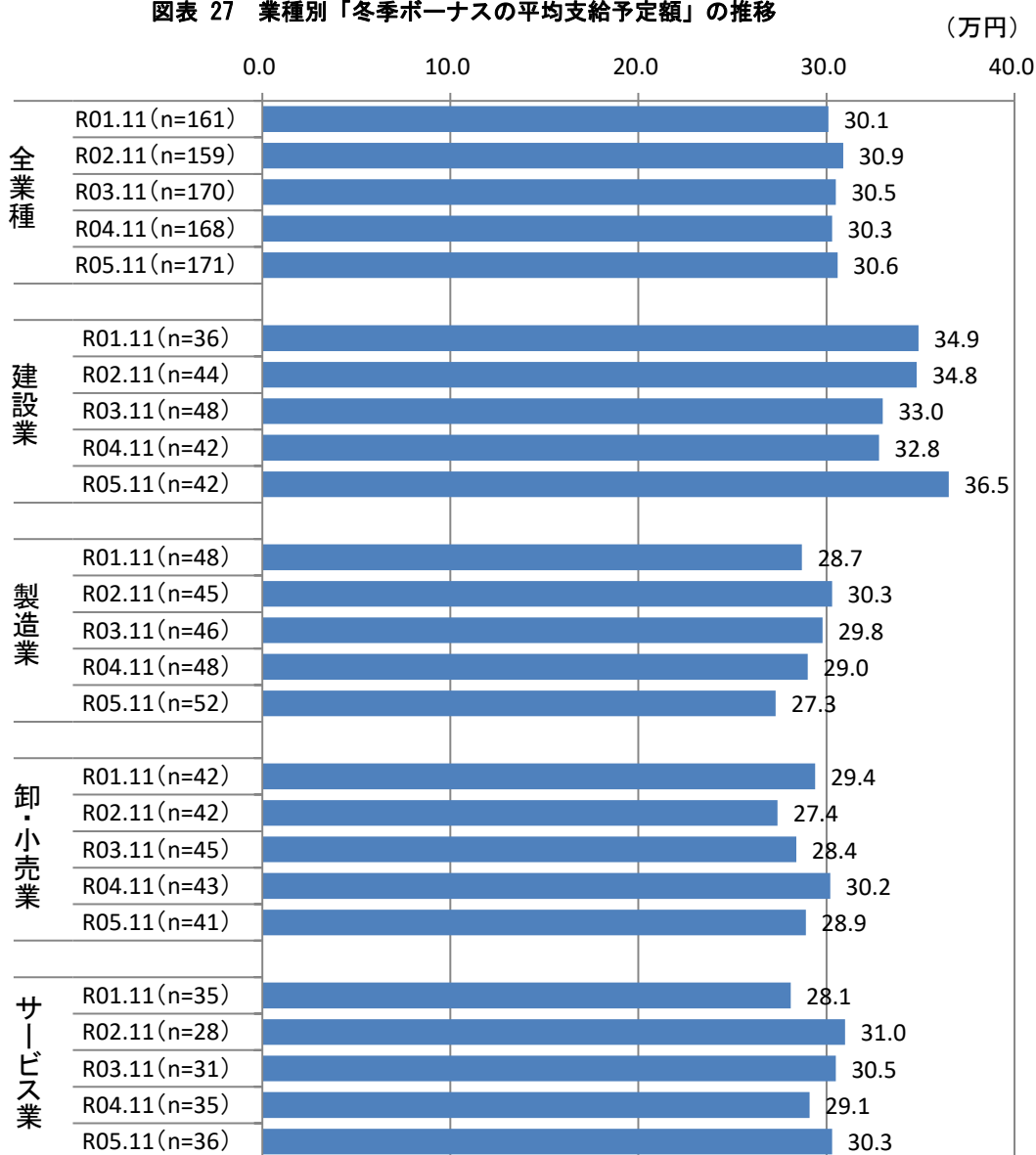
(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.6 万円となり、前年に比べ 0.3 万円の増加となった。業種別にみると、前年に比べ、建設業とサービス業で増加し、製造業と卸・小売業で減少した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 36.5 万円となり、最も低いのは製造業で 27.3 万円であった。

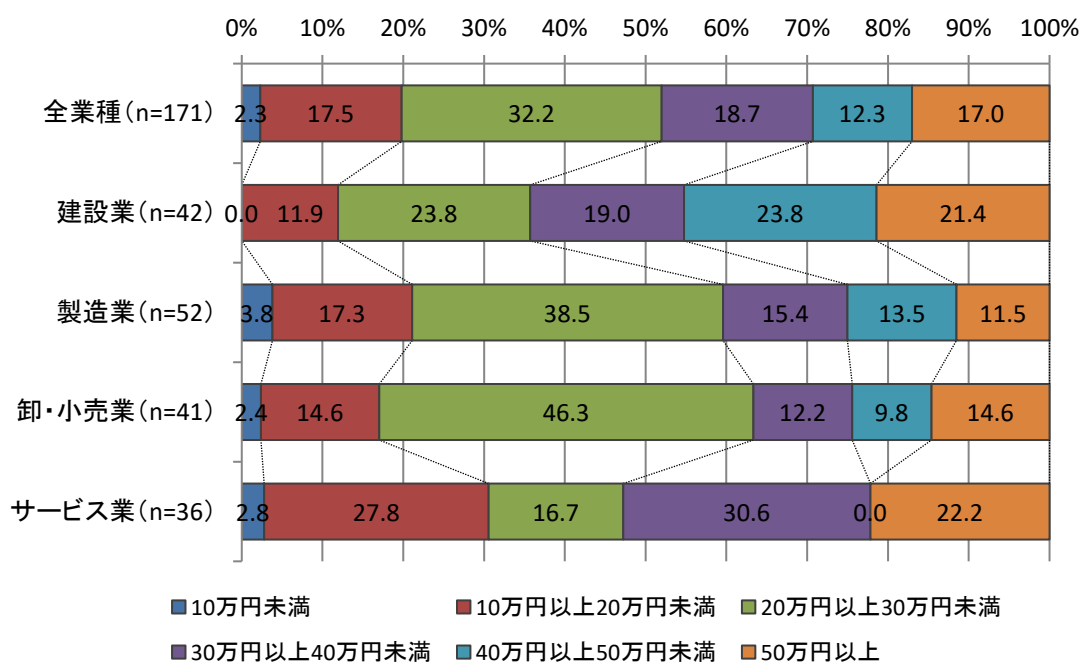
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、32.2%となっている。業種別にみると、建設業では、40 万円以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて高くなっている。(図表 28)

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、39.8%となっている。業種別にみると、建設業では、2.0 カ月以上を支給する企業の割合が他の業種に比べて高くなっている。(図表 29)

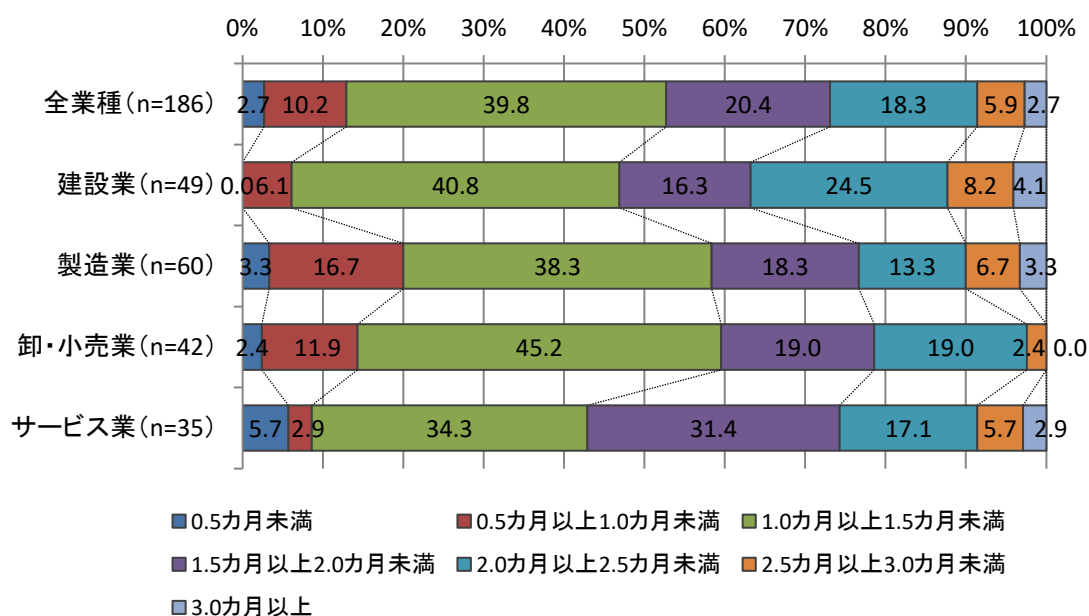
図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	22	33	42	50	147
村山北部	20	30	17	16	83
最 上	21	18	8	17	64
置 賜	23	27	25	12	87
庄内田川	29	37	28	28	122
庄内飽海	32	32	31	35	130
合 計	147	177	151	158	633

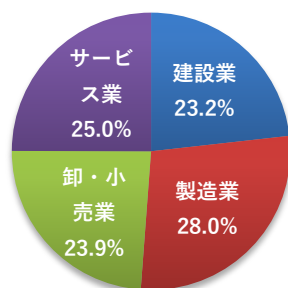
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	16	21	25	32	94
村山北部	5	20	11	7	43
最 上	13	12	5	9	39
置 賜	8	22	9	6	45
庄内田川	20	23	17	13	73
庄内飽海	13	16	15	18	62
合 計	75	114	82	85	356

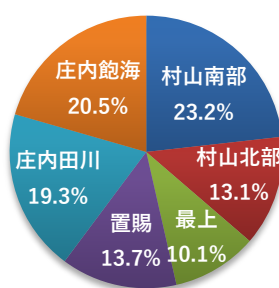
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	72.7	63.6	59.5	64.0	63.9
村山北部	25.0	66.7	64.7	43.8	51.8
最 上	61.9	66.7	62.5	52.9	60.9
置 賜	34.8	81.5	36.0	50.0	51.7
庄内田川	69.0	62.2	60.7	46.4	59.8
庄内飽海	40.6	50.0	48.4	51.4	47.7
合 計	51.0	64.4	54.3	53.8	56.2

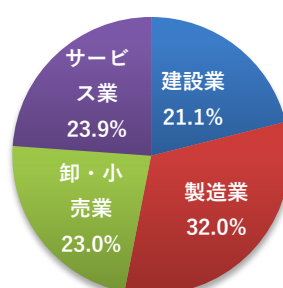
サンプル割合（業種別）



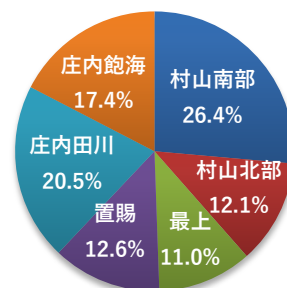
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 5 年 11 月 1 日(水)～16 日(木)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL: 023-626-9017 FAX: 023-626-9038

E-mail: kenkyuu@fir.co.jp

URL: <https://www.fir.co.jp/>